

### Ⅲ おわりに

私たちはネット社会の真ただ中を生きている。いまやICTは日々の暮らしはもとより、産業や医学などあらゆる分野において貢献し、ICTなしの社会は考えられなくなっている。

しかし、負の側面も増えている。自分がいたずらした動画をインターネット上にアップした少年は、大きく報道されて嬉しかったという。四六時中スマホが手放せないという依存症も問題になっている。こうした事例は枚挙にいとまがない。ネット社会は人間の思考や行動を大きく変え、好ましくない方向に進むのではないかと危惧する。

禁止区域に立ち入って遭難救助された中年のスキー客、自分の遊びを優先し子どもを死なせてしまった若い母親など、自分の欲求や衝動を優先した行為が繰り返されている。そうした実情から、日本人の心が劣化してしまったと憂う声も聞かれる。

本委員会を設置した平成25年当初は、これまで様々な対策を講じてきたにもかかわらず、尊い命を絶つ子どもが続いて、いじめ問題が大きな社会問題となっていた。一方で、東日本大震災をきっかけとして、日本人のもつ美徳やよさを見直す気運も高まってきていた。

そこで、いまこそ、子どもたちを社会の一員として生きていくことができるよう、「自らを律する心」を育成すべきときと考え、研究を重ねてきた。幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、そしてPTAと校種を超え立場を超え、子どもの実態や課題、具体的な実践などを話し合うことは、子どもの成長の連続性と指導の適時性を考える上で大いに参考になった。そして、それぞれの発達の段階で、子どもたちを確実に育てていく重要性を確認し合った。

学力の向上は社会的な関心が大きく、文部科学省も各教育委員会も諸施策を講じている。学力、学力の合唱のなかで、人間としての存在を高める「徳育」が疎かにされてはならないと思う。最後に次の提言をしてしめくりとしたい。

- 我が国の将来を担う子どもをしっかりと育てるという気概をもって臨もう。
- 子どもの成長・発達は連続していることについて理解を深め、発達課題を意識して指導していこう。
- よいことはよい、悪いことは悪いと、きちんと指導しよう。
- 子どもが自ら律する心を働かせた場面をしっかりと認め、自信をもたせよう。
- 愛情を基本とし、褒めることとともに叱ることも大切な指導と考え、子どもの心に届くよう上手に叱ろう。
- 一方通行の知識伝達型の授業を子ども主体の学習に転換し、自律する力を育てよう。
- 学校の全教職員が一つの方針のもとに、子どもたちを育てていこう。
- 学校と保護者、地域住民が子どもの実態と課題を共通理解し、協働していこう。
- 大人が子どもたちのモデルという認識で、周囲の大人が率先垂範して行動で示そう。